

検証

崩拓銀

<11> 10.10.29

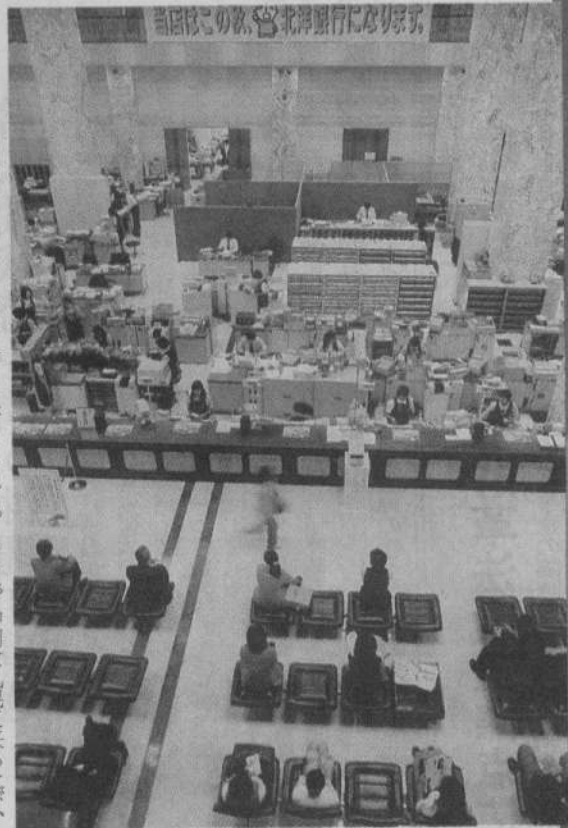
顧客に、
八三年、エスコの潤沢な資金を背景に中小企業向け金融会社「イーシーキャピタルアソシエーツ」(ECC)を設立。このころから中岡は頻繁に札幌に出入りし、拓銀にとって存在の重みを増す。

Aと中岡が接点を持ったのは、このころだった。

連鎖

トランでAと中岡がテーブルを共にした。

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣



本丸 大理石の柱は都銀本店の風格と重みを最後まで支え続ける「拓銀本店営業部」

裏目に出た。

会長たちと拓銀が本格的に抜き差ししない関係になったのは鈴木頭取時代。「鈴木が、その対応としりぬぐいを命じたのが佐藤安彦と海道弘司だった」(元拓銀幹部)。

後にカプトなどバブル融資の中心になる「SSKライン」の原点は、ここにあった。

やがてAの会社やエスコはECCへの拓銀融資は焦げ付き、拓銀は数百億円の实損を被った。だが、「金額以上に負った傷は深かった」との声が根強い。

つまり、これを契機に拓銀は黒い世界に足を踏み入れ、銀行が本来持つべき「清潔」が根強い。

「誇り」といったイメージを脱ぎ捨てた。そして「バブル」を取り戻そうとバクチに出た。

「関係者」。

取材班は二人の所在を捜し続けた。

十月中旬、中岡の本拠・大阪を訪ねた。「会長は最近姿を見せません。連絡先も分かりません」。どこで尋ねても

同様な返事だった。ただ、地元関係者によると、相変わらず羽振りはずよく、拓銀については知人に「過去は忘れた」とだけ語ったという。

一方のAは並初、所在どころか正体さえも判然としなかったが、やっと十月下旬、札幌市内の超高級マンションの住居を突き止め、電話で接触できた。「不動産管理会社とは約三十年前にかかわったが、今は関係ない。拓銀首脳の不祥事を掌握？ あり得ません」。淡々とした口調で拓銀との関与を否定した。

二人の「会長」に絡む拓銀の融資は、旧経営陣への損害賠償請求の民事訴訟の対象となる見込みだ。封印されたやみに、法廷でどれほど光が当たるといえるのか。

敬称略、肩書は当時(拓銀問題取材班)

思惑裏目深い傷負う

当時の拓銀は両者にとって貴重な金づる。互いの存在が煙たかった。雑誌や怪文書を弾が飛び交うようなもの。役員は二人を懸命に和解に導出した。

ある拓銀役員が同席した。中岡は拓銀には頭上を爆設。いずれも千億〜四百億つげた。鈴木頭取を取気安く「スーさん」と呼び、拓銀の人事にも口を挟んだという。

和解工作の背後で、二人に何かあったのか、関係者は二人はより深く拓銀に付け入るため、ひそかに手を結んだという。拓銀の思惑は

だが、事態は好転しなかつた。逆き出すカネはさらに膨張し、九〇年ごろには千億以上

八〇年代後半のある日、札幌の地下にあるレスに二人の拓銀側への攻勢は激

八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

しさを増した、とされる。Aに、中岡は札幌に来るたび、八〇年代後半、旭川、帯広、ホテルの最高級の特別室に陣

首脳「不祥事」掌握により拓銀から多額な不明朗融資を引き出したとされる札幌の不動産管理会社の会長、A。拓銀系ノンバンクのエスコリースの資金数百億円を政官界にバラまいたとされる大阪の金融会社社長、中岡信実。拓銀を悩ました二人の「会長」問題は、ある時期から密接に絡み合った。

関係者によると、Aが拓銀に食い込んだのは一九七〇年代とされる。Aは当時四十歳前後のはずだが、「首脳に料亭で接待されるなど大物扱いだった」(元拓銀幹部)という。八〇年前後、Aの会社は